

——市大全共斗総括の一視点——

——パルチザン前史——

製作=リリアプロダクション

リリアプロダクション事務所
大阪市北区津田町32 松田ビル
TEL 06 (371) 2096

「強い組織……ではなく、一人ひとりの強い人間が革命をやる、強い人間というのは全人的な力量を持った魅力のある人間、非常に豊かなことだけ、ぼくら自身がそういった人間を育成する、これをやらなければダメだ、自分で働いて自分の責任でメニを食い、自分の金で自分の武器を買い、自分の戦略で自分たちの力だけで戦っていくということを、いかに少数であってやり切っていく。その中でパルチザン五人組というのは誰が何と言おうと断固として抵抗すべきだし、展開すべきである。」

東京、広大型のくり返しにくい決戦を許し、その敗北の中から70年代、80年代を見据え、新たな党一主体的暴力建設のために、自らの栄光ある全共斗にすら訣別しようとする若き学生研究者たち、歴々の個別全共斗闘争が、どうしようもなく崩壊していくアコセスの中で、東京全共斗は、「共産主義労働国・パルチザン五人組」を組織し、10月11日決戦を通過しつつある状況を苦境に満ち

●市大闘争の10月4日の局面を、それに至る全共斗の闘いと、その後の闘いを、このようなパルチザン闘争の厂田から捉えかえるとき、市大全共斗が拠点を市会突入へとより先鋭な闘争を貫徹しながら、その後の闘いの中で明確な拠点を保持しつづける階級闘争へと自己を高めんとしている時、闘ってきたもの、そのを支えてきたもの、とりわけ市大闘争の最前線に真剣に取り組んでいる学生、院生、教職員が闘う主体にとって、この上映が何月かの糧となれば幸いである。

主催「パルチザン前史」自主上映実行委

——市大上映——

12月19日(金) 午後1~3時(初回)、5~7時(第2回)
於.工学部階段教室

ながら先取りする。

「現在のところ、我々にとって<暴力>とはま
だく憧れにしか過ぎない、我々おあまり深く
<暴力>に捉えられ振りまわし過ぎている。
だが、このことに眼をつむってほならない。目下
の課題は、如何に<暴力>を主体的に捉えかえ
し、自らの手の内を自在にあやつることが出来
るか、これを抜きにして、我々は<我々の>闘
争を闘い抜くことは出来ないだろう。」

解体=再生を、単にことばの問題としてでは
なく、内容=行為=主によって、厳格=裏打ち
していく闘いがいま始まる。そして新しい、か
つて経験したことのない<共同労働>を始めよ
うとしている。

映画「パルチザン前史」は、9月初旬の東京
全共斗の「夜の軍事訓練」から10月下旬までの
2ヶ月間を、市大を含む関西、主に京大を中心
としてドキュメントしたものである

(16% 上映時間120分)

1417